

県キャリア教育支援センター所属のコーディネーターは、次のような視点で各学校のキャリア教育実践を支援しています！

- 各学校の特色を活かしたキャリア教育プログラムの推進
- 地域・関係団体・産業界と連携した高校・特別支援学校のキャリア教育プログラムづくり

各学校でのキャリア教育実践を進める上で、参考にしてもらえればとの思いで、各コーディネーターの思いと支援に携わる県立学校の実践事例を紹介します。

9月22日(金)県立高鍋高等学校 (普通科キャリア情報クラス1年生) 講師14名と「対話でぶつける日」



課題・ねらい

対象のクラスは、大学進学を含め就職(公務員・民間就職)など多様な進路実現を目指す生徒が在籍。特に1年生はぼんやりと夢を描いている生徒やまだ夢が見つからない生徒もいます。こうした生徒たちの実態をふまえ、高校生活の早い段階から、高校3年間のビジョンを描くことで、進路実現のための具体的な行動を決める一助となればと講師14名との対話を企画しました。

生徒が主体的に取り組めるよう工夫されていたこと5つ

- ① 生徒とどのように関わってほしいかを明確にし、生徒の視野が広がる・話せる人選にこだわった。
- ② 地域の皆様の元へ足を運び、個別に説明した。
- ③ 生徒が自分と向き合える事前ワークを実施。
- ④ 生徒は自己紹介ボードを事前に作成し、得手不得手に関わらず対話を楽しめるようにした。
- ⑤ 地域人材を表すキャッチコピーと5つのキーワードで生徒とマッチング(最初は肩書きや名前を明らかにしない)

高鍋高校・井上健吾先生(情報科)コメント

「対話でぶつける日」を、選択肢を広げていくスタートと位置づけています。実施後の生徒の振り返りで、もっと話したかったという素直な声が上がっていました。その声から、多様な価値観に触れることを受け取り、もっと知りたいという貪欲さも生まれていると感じました。1つのきっかけにより様々な人と影響し合う豊かさを、体験として持ち帰ってくれてよかったです。



コーディネーター：福島 梓(ふくしま あずさ)

生徒、先生、学校、地域の方の「～したい」を引き出すために心理的安全性の高い事前打ち合わせを大事にしています。「前後でどんな行事がありますか?」「地域としては何があると嬉しいですか?」などヒアリングします。今回も多くの方にお時間をいただきました。先生との連携等、事前準備段階について、下のQRコードの「活動日誌」から遡って読めます。お読みいただけたら嬉しいです。



コーディネーターへの相談、依頼は宮崎県キャリア教育支援センターまでご連絡下さい！

電話：0985-24-3156

紹介した事例以外にも多くのキャリア教育実践が「活動日誌」として掲載されています。
宮崎県キャリア教育支援センターHPはこちら <https://cms.miyazaki-c.ed.jp/ssc058/>

